ＩＳーインフィニットストラトス～ＣＯＯＤｏｆｔｈｅＳＡＩＮ

コアス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ＩＳ－インフィニットストラトス～ＣＯＯＤｏｆｔｈｅＳＡＩＮ

【Ｎコード】

Ｎ６８２８Ｑ

【作者名】

コアス

【あらすじ】

「ＩＳ－インフィニット・ストラトス」の夢ノベルです。

「福音事件」後の世界にしました。

オリキャラも出てきます。

ＥＰ１「転生、転入、そして・・・」（前書き）

やっと打つ気が出ましたｗどうぞ！

EP1「転生、転入、そして・・・」

～ＩＳ学園学食～
「ねえ、聞いた？明日また男子が転入してくるんだって話」
「ええーっ！？本当！？」
「先生達が話しているのを盗み聞きしたんだから間違いないと思う」
「織斑君の他にも・・・」
「ふーん・・・そうなんだ俺の他にもか・・・どういう奴なんだろうな？」
「うん！お楽しみだねえ～！☆」
「でもうちのクラスではないみたいだよ」
「えっ！？／／／／・・・」×？
「鈴、二組はなにか聞いていないのか？」
「それなんだけどね、こっちのクラスでもないらしいのよ・・・」
「一体どこのクラスだろうね？」
「ハア・・・」
「・・・・・」
～・・・・・・～
「・・・来ちゃったよ俺ここに・・・」
俺は西・カオスサイン。オタク高二年だ。
天使かなんだか知らないがあのアホドジ天使に俺は転生させられてしまった。
そして転生先はなんと「ＩＳ－インフィニット・ストラトス」の世界だった。
当然のごとくＩＳ動かせた。やっりいー！年はいったのだが先生がＩＳの勉強の為に一年に入れてくれたようだ。（本当なら先輩になるんだが・・・）どうやら「福音事件」後のようだ。
「あ、西君早いですね」
「ほう、遅刻せず登校してきたか」

「山田先生、織斑先生｛!?俺の家あんのか!?｝」
「早速だが案内するぞ」
「ハイ!お願いします!」
～そして・・・～
「アレ?俺が入るクラスってここなんすか?」
「ン?なにか文句があるのか?」
「いえ・・・」
そのクラスは織斑一夏がいるクラスでも鈴ちゃんがいるクラスでもなかった。
一年１６組だった。どういうクラスなんだ?｛原作で出てきたっけ?｝
「・・・・」
「後、お前の寮とＩＳのことだが・・・」
「あ、ＩＳのほうは俺も専用機があるので大丈夫です」
「そうか」
～そして～
「というわけで転入生を紹介するぞ」
「えー・・・どうも～!今日転入してきました、西・カオスサインです。宜しく!☆特技は歌ですｗ???♪」
「うおー!このクラスにも男子が入ってきてくれてよかったあー!先生ちょっと不安だったのよーん～!」
なんでＩＳ動かせない男の教師がいるんだよ!?しかも○十星みたいな変態・・・。クネらせるな!
「僕はこのクラスの担任浅間葛緋よーん。ヨロシクねえ!」
「わ・・・私は副担の朝霧紀香です・・・。どうか宜しく・・・」
よかった・・・副担は女性だ。
「西君ヨロシクねえー!」
「・・・・」
「うわｗっ!?ｗちょっと待って・・・ハッ!?」
うわーお・・・廊下には他学年、他クラスの女子集団で溢れかえっ

ていた。一夏達も見に来ている。
目が怖い・・・。
「このクラスだったのか」
「うわ！？でも変態教師がいるクラスじゃん・・・」
当の本人は・・・
「♪～」
自重してなかった。本当に大丈夫なのかこのクラス？
「えーと・・・席は・・・うん！紅衣さんの隣ね！★」
おげえ・・・とりあえずウィンクするな気持ち悪いから。
「西君だっけ？私は紅衣朱璃だよ。宜しくね☆！」
よかった篠之ノ箒みたいな性格じゃなくて。
あの性格はちょっと接しずらいからな。
「それでは授業を始めるよーん」
～昼休み～
「織斑一夏はどこなんだ？」
「織斑君達ならいつもあそこで昼食とってるよ」
「フ・・・いよーし！・・・」
そして一夏達の所へ
「ようっす！」
「お！？噂の転入生じゃないか」
「うわｗっ！？」
「あー！噂の男子転入生だあー！」
「うげ！？」
「新聞部部長の黛でっす！☆インタビューさせて下さい！」
「りょ・・・了解する・・・」
「あっちもあっちで大変だな・・・」
「実力が見てみたいですわね・・・」
「セシリア？おい？・・・」
「お！？」
キター！セシリアさん！でも俺まだ自己紹介してないぞ？

「貴方に決闘を申し込んでみたいのですわ！」
「なん・・・だと！？・・・・」
まさかの一言だった。
「ええー！？またあー！？」
その場に居合わせた一同全員凍り付いたのだった・・・・。
「参ったな・・・・・」
俺、どうやって攻略すればいいんだろ？・・・・
続

ＥＰ１「転生、転入、そして・・・」（後書き）

突貫したい気分だ・・・。

EP？「初バトル！！それと・・」（前書き）

突貫します！！！いや、してきますw！！！

EP？「初バトル！！それと・・」

～放課後～
「本当に参ったな・・・初戦がまさかセシリアさんとバトルすることになろうとは・・・トホホ・・・」
一夏の時と同じように俺の実力も見てみたいのだろうな・・・。
「とりあえず寮に向かうか・・・」
～ということで～
「えっと・・・ここだな俺の寮部屋は。どうも！今日からここで過ごすことになた・・・ってアレ？・・・」
ルームメイトは留守だった。
「まあ、いいか・・・」
～翌日～
「・・・！ルームメイトさんおはよう・・・ってあり？・・・」
朝になってもルームメイトは戻ってきていなかった。
～試合場控え準備室～
「織斑先生ちょっと聞きたい事が」
「なんだ？」
「今関係ない事なんですが俺の寮部屋にはルームメイトいますよね？」
「・・・ああ、」
「そうですか」
「同じクラスの子よーん☆」
浅間先生が話に入ってくる。相変わらずキモイ・・・。
ン！？今クラス内の子って言ったよな？
「！？・・・まあ、いいか・・・いくぜ！起動する！」
シュイーン！
「来ましたわね」
「これが俺の専用ＩＳ、「カオスダークネスエクセリオン」だ！！」

「おおー！！」
「あれがカオスの専用機・・・」
「「これより一年一組セシリア・オルコットＶＳ一年１６組西・カオスサインのＩＳ対決を行う！シールドエネルギー量は６８０だ。始め！」」
「うおおおおー！！」
俺は「双剣　カオスロストブレイン」を取り出し、突貫する。
「この私のブルー・ティアーズに果たして格闘攻撃を当てられるのかしら？」
対するセシリアさんはライフルで狙撃してくる。
ヒュン！
俺は颯爽と回避する。
「な！？」
「生憎なんだが機動力はこっちが上なんでな！」
「でもまだ勝機はありましてよ！」
本気になったセシリアさんはブルー・ティアーズを放ってくる。
「！」
俺のシールドエネルギー６８０↓５００に削られていく。だが！
「撃ちすぎは時には敵の隠れ蓑にもなりうるんだぜ！せいやあー！」
俺は煙幕を味方に特攻を続ける。
「まさか！？ワザと攻撃を受けましたの！？・・・でもそれぐらいの距離まだ回避できますわ！」
「それはどうかなあ？・・・俺がこのまま斬りかかると思ったか？」
俺は素早く「双銃　カオスダークネスブラスト」に切り変えて撃つ。
ドド！
「キャア！？」
セシリアさんのエネルギー６８０↓４８０に削った。
「西君／カオス君が逆転したわ！」
「すげえー！・・・」
「まだですわ！全弾発射！！」

「のお！？」
ドーン！！セシリアさんの渾身の一撃が繰り出される。
俺５００→４０１
「・・・そろそろ使ってみるとするかアレを！」
キイーン！
「なにをなさる気ですの！？・・・」
「「ＥＸコンボ」！！」
チュイーン！ギリギリ！
「スラスター展開！「カオスダークネス・トラフィネックブレード」！！」
５０１→３００単一仕様能力武装を発動する。
「いっけえー！」
「先程のより攻撃速度が数段早くなってるというの！？避けられませんわ・・・」
「うおー！「西十紋字斬」！！」
スサ！
セシリアさんのエネルギーが０になった。
プアーン
「「勝者、一年１６組西・カオスサイン！」」
「ワアー！！」
「よくやってくれたわねーんカオス君！」
「凄い・・・戦いでしたよ・・・」
「ほんと、オルコットに勝つとはな」
「はわわ凄いですね・・・」
「・・・・・」
バトルも勝利終わり・・・
「戻れ！このキングオブハート！」
ＩＳを待機状態の魔方陣紋章に戻らせる。
「さて・・・どうしたもんかな」
～その頃・・・セシリアＳｉｄｅ～

「私・・・負けたの！？・・・・このままでは一夏さんへの想いが・・・でも・・・・」

～戻って～

「でもセシリアさんは・・・・」

彼女を傷付けたくないのだが俺は好き・・・

「あー、もう！一体どうすりゃいいんだよ！？」

モヤっ気全開のまま寮へと帰る俺だった・・・・。

続

EP？「初バトル！！それと・・」（後書き）

本当にどうすればいいんでしょうか？・・・

ＥＰ？「揺れる想いの中の閃光」【前編】（前書き）

はい・・・いってきます・・・

EP？「揺れる想いの中の閃光」【前編】

「なんでいないんだろう？」
寮に戻った俺はルームメイトの帰りを待つ。
が、夜になっても帰ってこない。
「・・・おっともうこんな時間か風呂入ってスッキリするか・・・」
だが・・・俺はここで・・・
「ふいー落ち着くなあー・・・」
「・・・・・」
「！？」
背中に悪寒を感じた。まさか今頃戻ってきたのか！？
「・・・・・」
「う！？ムグ・・・」
背後に紫ツインテールヘアーの美少女がいた。
「・・・・・」
「ちょw！？まっ・・・！？」
そして少女は入ろうとする。
こ・・・これはマズイ・・・
「おわー！？」
～その頃、セシリアＳｉｄｅ～
「一夏さんはもう寝ていらっしゃいますしやることがありませんわね・・・そうですわ！あの方なら・・・」
私はあの殿方のことを思い出す。
「行ってみましょう！」
～戻って～
ヤバイ、マズイ・・・この状況は！・・・
「・・・・・」
当の本人はこっちに近付いてくる。
「ここは早いもの勝ちで！・・・おわっ！？」

ツルッと滑ってしまった。
「イテテ・・・！？セシリアさん！？なんでここに！？」
なぜかセシリアさんが水着姿で来ていた。
「・・・せっかく私がお背中お流しして差し上げましょうと思っていたのに・・・見損ないましたわ！貴方がそんな方だったなんて！」
セシリアさん・・・言ってることとやってることが真逆なんですけど・・・ってはい！？
「落ち着いてくれ！セシリアさん、これは誤解なんだ俺の話を聞いてくれ！」
「部分展開・・・」
そして展開したブルー・ティアーズで往復ビンタされる。
「のおおおおおおおおおおー！？・・・・・・」
～翌日～
～一夏Ｓｉｄｅ～
「なんだ？セシリア、どうかしたのか？」
「・・・別になんでもありませんわ！」
逆ギレされる。なんで・・・俺なんかやらかした？
～保健室～
「昨日は散々な目に遭ってしまった・・・」
セシリアさんに誤解されるわ、ビンタされるわで・・・。
「その子って多分神崎さんじゃないの？」
保健の先生にそう言われる。
「どういう子なんだよ？ったく・・・」
「浅間先生に聞いてみたら？私もあの子のことよくそんなに知らないし・・・」
「・・・・・」
「お呼びかなあーん？☆」
「うおわっ！？驚かさないで下さいよ！」
いつの間にか俺の背後にいやがった担任。
「あの子はカオス君の左隣の席なんだけど・・・」

「あ！・・・」
そういやあそこだけいつも空席だ。
「あの子成績はとっても優秀で専用機も持ってるんだけど教室に一度も顔出してくれないのよ～んねえ・・・」
そういえばクラスメイトがこんなことを言ってたような・・・
「そこの空席？さあ？知らないわクラスに居ることは確からしいんだけど・・・」と
「俺・・・」
「神崎さんのことお願いねーん！☆」
言わずとも分かっていたようだな。
続

ＥＰ？「揺れる想いの中の閃光」【前編】（後書き）

次回！探します

ＥＰ？「揺れる想いの中の閃光」【中編】（前書き）

さあ、いこうか！

EP？「揺れる想いの中の閃光」【中編】

「よし・・・まずは・・・」
情報が必要だ。
俺は新聞部に向かった。
「あー！？西君じゃない！どうしたの？」
黛部長以下数名の女子が俺を見つけるなり猛ダッシュしてくる。
「の！？ちょっと俺ホントに急いでるんだ！」
「神埼瑠美さんのプロフィールでしょう？用意してあるよ～☆はい！」
「お！？そうそう！」
浅間先生・・・ここまで分かってくれていたようだな。
「なっ！？・・・これは！？・・・」
「あ、また来てねえ～！毎度～」
彼女の専用機がエクセリオンタイプだと！？これはどういうことだ！？
「さて・・・しらみつぶしに探すか」
人があまり来ない場所屋上・・・いない・・・校舎裏・・・いない・・・ならあそこしかない！
「はあはあ・・・やっと見つけたよ」
「・・・・・」
神埼さんは案の定図書室にいた。
「どうした？こんなとこにいて？」
「・・・・・」
「はあ・・・」
神崎さん・・・せめて喋ってくれ・・・
「・・・食べる？・・・」
「ヘッ！？・・・」
神崎さんは俺に恐らく！手作り弁当！をってこんなことしてる場合

じゃねえ。
「あのなあ・・・」
「・・・嫌？・・・・」
「う！・・・」
ヤバイ・・・可愛いぜ・・・！
「頂ますw・・・」
「ニャ・・・」
なぜそこで猫化する？
神埼さんの思考が読めない・・・。
そう頭を抱え込んでいると・・・激痛がした。
「あぶばあ！？」
「カオス、こんな所でなにしてるんだ？もうとっくに授業は始まっている・早く戻れ」
織斑先生が俺を探しにきたようだ。そういや次の授業だったけ。
「・・・・・」
「あれ？」
神埼さんはついてきてた。
「なんだ、神埼も授業に出る気になったのか？」
コク・・・と頷く。
「これは驚いたな・・・」
教室に戻ると皆「えー！？」とか「なにがあったの！？」とか騒ぎ立てていた。
「お前等静かにしろ！」
「なにがあったの！？ホントに」
紅衣さんも驚きを隠せないようだ。
「俺にもなにがなんだか分からん・・・　！？」
「☆！」
確信犯がいた。
～昼休み～
「浅間先生・・・どういうことなんですかあ！？」

「そんなに怒らないでえーん。ただカオス君があまりにも神埼さんの父親に似ていたもんだから・・・」
「え！？」
「見たんでしょ？」
そういえば・・・
「神埼さん、父親を中学二年の時に病気で亡くして心閉ざしていたようなのよ。」
「母親は？」
「うーんそれがねえ・・・幼少の頃に失踪してそれっきりらしいのよーん・・・」
「・・・・・」
俺は懐かれてるということなのか！？
「そんな形はあまり嬉しい気がしません・・・」
「あらーん残念ねえーん」
この人は一体なにがやりたいんだ？
「ちょっとよろしくて？」
「あい？」
セシリアさん！？ちょうどよかった誤解を・・・
だが次の言葉で逃してしまった。
「私、セシリア・オルコットは一年１６組の西・カオスサインと神埼瑠美さんに決闘を申し込みたいのですわ！」
「なぬ！？・・・」
「・・・・・」
「わー！？」
周りの生徒達が騒ぐ。
「オルコット・・・この間負けたばかりだろう・・・」
「大丈夫ですわ！次はタッグですので！」
「・・・不幸だあああああああああー！」
かくして俺と神埼さんはバトルを再度申し込まれてしまった。
続

ＥＰ？「揺れる想いの中の閃光」【中編】（後書き）

次回、大バトルの予感！

ＥＰ？「揺れる想いの中の閃光」【後編】その１（前書き）

超×∞突貫してきます！！！

EP？「揺れる想いの中の閃光」【後編】その１

タッグバトルは来週の木曜となった。
翌日俺は神埼さんと一夏と昼食を捕っていた。
「それは災難だったな」
「お前な・・・」
他人事みたいにいうなコイツ・・・。
「一夏お前が組むのか？」
「ああ、俺はその日の放課後は鈴と約束しててな。セシリアには悪いが・・」
「・・・・・」
よっしゃ！と心中で俺は叫んだ。一夏が相手だと正直かなり厄介だからな。
「それじゃあ・・・」
セシリアさん誰と組む気なんだ？
～その頃・・・セシリアＳｉｄｅ～
「なんですってえー！？鈴さんも一夏さんも試合に出られない！？」
「アハハ・・・ゴメン私と一夏約束あるから・・・他当たって。ね？」
「・・・なんか嫌な気分ですわね・・・」
～シャルの部屋～
「あー・・・僕その日は父に呼ばれてるんだ。」
「仕方ありませんわね・・・」
それではあの方しかいないんですが・・・
～ラウラルーム～
「嫌だ！なぜ貴様なんかと組まねばならん？一夏となら喜んでやるがな」
「会長、よろしくお願い致しますわ」
「ＯＫ！☆」

「なっ！？なにをする気だ貴様！？」
「いいからいいからちょっと話を聞きなさいな。ゴニョ・・・」
「うむ・・・そ・・それは！？・・・それならば仕方ないこの私が組んでやろう」
「ありがとうございますですわ！」〜楯無会長は一体なにを吹き込んだのでしょう？・・・〜
〜戻ってアリーナ〜
「うん、機体良好！」
俺はすでに起動させ神埼さんを待っていた。
「お、キタな。って！？・・・」
「？・・・・・」
あの・・・神埼さん？なんであなたのＩＳプロテクトスーツがゴスロリメイド服みたいなんですか？〜まあ、普通もブルマみたいだけど〜
「・・・・・」
「まあ・・・とりあえずやってみるか」
神埼さんのＩＳは「イクスヴェルエクセリオン」。ブラック＆ホワイトカラーで中距離格闘特化機だ。
「練習戦でなんとか神埼さんが戦えるレベルまでいければいいんだが・・・」
「・・・・・」
神埼さんは爪型武装「イクスラッシュ」で仕掛けてくる。
「おわっと！？やるなあ・・・」
俺もすかさずガードする。
「そういや・・・」
いざという時はあのシステムがある！そう・・・
そして迎えた当日
「まさかラウラさんがくるとはな・・・」
一夏の次に厄介な相手だ。てかセシリアさんよく組めたな。
「「これより、一年一組セシリア・オルコット＆ラウラ・ボーデヴ

ィッヒＶＳ一年１６組神埼瑠美＆西・カオスサインのタッグバトルだ。ＳＥは各機１８００試合開始！」」

続

ＥＰ？「揺れる想いの中の閃光」【後編】その１（後書き）

ちょっと時間が・・・

EP？「揺れる想いの中の閃光」（後編その2）（前書き）

俺、本気いくぜぇー！！

EP？「揺れる想いの中の閃光」｛後編その２｝

かくして戦いのひぶたはきっておとされた！
「超！突貫します！！！いくよ、神埼さん」
「うん！」
「なんだあの機体は？・・・フン！まあ、いい・・・」
「いきますわよ！」
「どおおおおお！」
俺は双剣でたたみかける。
「はん、甘い！」
ラウラさんがシュバルツェアレーゲンの大砲を放ってくる。
「ちいっ！？」
俺ＳＥ１８００→１５９９
「そんなもんか！？」
「神埼さん、セシリアさんの方を頼む！」
「うん！」
「おおお！」
「ＥＸコンボ」を発動させる。
「気を付けてくださいまし！」
「分かってる！・・・そこか！？」
「おっ！？」
やはり機動性をＵＰさせた俺についてこれるようだな・・・。
～瑠美Ｓｉｄｅ～
「・・・・」
「この子本気ですの！？この私に」
「させない！・・・」
「！？この子も速い！・・・ですが・・・え！？・・・ブルーティアーズが・・・」
「どうした！？セシリア」

「おおー！！？」
ギャラリーも騒ぎ立てる。見るとブルーティアーズが一つ残らず破壊されていた。
「なっ！？いつの間に私のブルーティアーズのビットを！？・・・・はっ！？」
「・・・・・」
カシ！
「きゃあ！？」
セシリアＳＥ１８００→１５００
瑠美ＳＥ１８００→１７７７
～俺～
「「カオスダークネス・トラフィックブレード」展開！！！うおおー！」
「！くうっ！？」
ザイン！
ラウラＳＥ１８００→１３００
「「いい戦いだな」」
「まだだ！」
「！くるか！？」
「フルバースト！」
「ぐ！？」
俺１５９９→６９９
「不味いな・・・」
～瑠美Ｓｉｄｅ～
「う・・・」
「ビットを落とせたことは褒めて差し上げますわ！でも！」
容赦なく撃つセシリアさん。
～俺～
「そろそろ使うかな！・・・・」
「！？」

そう・・・エクセリオンタイプにだけ秘められた力を！
「「サインシステム」超起動！！！」
「なっ！？なんだ！？」
「「ＳＥが回復していく！？織斑先生！・・・・」」
「「あんな能力があったとはな・・・」」
俺６９９→１４９９
「ドラああああああああああああああああー！」
「うわ！？・・・」
～瑠美Ｓｉｄｅ～
「！」
カオス君・・・私も頑張る！
「・・・「サインシステム」・・・超起動！・・・・」
「！？そんなのありですの！？」
「「イクスブレイクサインエッジ」！・・・・」
ポーン！
「「一組のＳＥ切れにより一年１６組の勝利！」」
「ワアー！！」
「そんな・・・まただなんて・・・」
～・・・・・・～
「ふう・・・やれやれだったぜ・・・」
セシリアさんの誤解もとけてよかった。
続

ＥＰ？「揺れる想いの中の閃光」（後編その２）（後書き）

次回、微妙な距離感！？

オリキャラ設定紹介その１（前書き）

設定１です

オリキャラ設定紹介その１

１、俺、西・カオスサインの愛機「カオスロストダークネスエクセリオン」
武装「カオスロストブレイン」、「カオスダークネスブラスト」
単一仕様能力「カオスダークネス・トラフィネックブレード」　基本性能は一夏の白式と同じ
「サインシステム」＆「ＥＸコンボシステム」
ＥＸＳＥＲＩＯＮＴｙｐｅのＩＳにしかついていないシステム。ＥＸコンボは一時的に攻撃速度を格段に上げ、サインシステムはそれぞれによって上昇する性能が違う。俺の場合、全性能が上がる。
２、浅間葛緋
俺のクラス担任〔男〕。ＩＳについては動かすことはできないが知識が深い為教師をしている。影で俺を助けてくれてる？ようだ・・・。
３、朝霧紀香
福担。性格は山田先生以上に臆病。どうやら浅間先生のことが好きなようだが・・・
４、神崎瑠美
メインオリジナルヒロイン。
クラスメイト兼寮のルームメイト。
何を考えているのか全く分からない不思議ちゃん。
ＩＳバトルについてはかなりの実力がある。
俺が彼女の父親に似ているらしいのだが・・・
専用機はＥＸＳＥＲＩＯＮＴｙｐｅ０１「イクスヴェルエクセリオン」
武装「イクススラッシャー」
単一仕様能力「イクスブレイクサインエッジ」
サインシステム

対格闘防御が上昇するようだ。

オリキャラ設定紹介その１（後書き）

まだまだオリジナルヒロインは追加されるぜ！

ＥＰ？「転入生」（前書き）

更新さぼりすぎてましたｗ・・・

EP？「転入生」

セシリアさん&ラウラさんチームとのバトルを終え、
「うにゃあー♪」
「にゃ・・・♪」
神崎さんは野良猫と遊んでいてご機嫌がいい。
「明日は転入生がくるのか・・・」
俺は楽しみで仕方なかった。
～翌日～
「はあーいでえは転入生を紹介するわよーん！」
「どうも今日転入してきました如月愛歌でえーす！前の学校では軽音部に入っていましたあ。皆よろしくね！」
「なあんだ女子かー・・・」
そんな声も聞こえてくるが・・・。
「まだまだいるわよおーん！」
「まだ！？」
「どうもはじめまして。私は砂木あかりと申します。あ！・・・このクラスにいらっしゃいましたのね！カオス様ー！」
「はい！？・・・」
「これはもしかしてもしかするのかな？・・・」
突然俺の名を呼ばれ驚く。
「お慕い申しておりました。私、カオス様の・・・貴方様の許嫁なのです！」
「んなぬ！？」
「エエエエエえええええええー！！！！？？」
「そんなあー！？」
女子の悲痛の叫びが止まらない。俺も頭が真っ白になる。
「あーはいはい止まりなさい」
浅間先生がその空気を壊す。

「・・・・・」
そんなわけで俺は黛部長の陰謀により全学年の三割が悲観した大事件となった・・・。
～放課後～
「あー・・・色んな意味で大変だ・・・」
そして寮に戻ると・・・
「・・・・・・」
「・・・・・」
なぜか如月さんと砂木さんがいた。ちなみに神崎さんは図書室に外出中。
そしてどうやら着替えている途中だったようだ。
「え・・・えっと・・・？」
「／／／・・・いつまで見てんのよ！？この変態！」
「まあ・・・！」
砂木さんは妄想の世界に入り込んでしまっている。
「ちょw待った！・・・」
「問答無用！」
「ぬおおおおおー！？」
俺の叫びが学園中に響き渡り、織斑先生が駆けつけてきてよもや当然のごとく出席簿アタックを受けたのであった。〜しかも連続二回も〜
続

ＥＰ？「転入生」（後書き）

次回予告！如月さん達の着替えを不可抗力でありながら覗いてしまった俺は如月さんにＩＳバトルを申し込まれる。果たして彼女のＩＳの性能とは！？乞うご期待！

EP？「ISファイト！」（前書き）

おまたあー

EP？「ＩＳファイト！」

「はあ・・・なんで俺もこんな目に・・・」
昨日如月さん達の着替えを不可抗力でも覗いてしまって如月さんにバトルを申し込まれた。
勘弁してくれよ俺は一夏みたいな奴じゃない・・・。
～その頃の一夏～
「ぶえええーくしょい！」
「風邪ひいた？一夏」
「いやなんとか大丈夫・・・」
「そう・・」
鈴とデートしていた。
～アリーナ～
「神崎さん準備できた？」
「うん」
ちなみに・・・
「専用機が届いていればご一緒できましたのに・・・」
砂木さんのＩＳはまだ届いていなかったようだ。
「本当に俺達二人で挑んできていいのか？」
「いいわよ別に、存分にかかってきなさいな！」
「「これより一年十六組西・カオスサイン＆神崎瑠美ＶＳ如月愛歌のバトルを開始する！始め！」」
「じゃあいこう神崎さん」
「うん」
ＳＥ２０００
「「カオスロストブレイン」！」
「「イクスサインエッジ」・・・！」
一斉攻撃を仕掛ける。
如月愛歌　１９２０

「なかなかやるわね。でも」
キイーン！・・・・
「！？う・・・」
「どうしたんだ！？神崎さん」
如月さんのＩＳから奇怪な音が鳴ると同時に神埼さんの様子がおかしくなった。
すぐに画面を確認する。そして驚くべき事が・・・
「神崎さんのイクスヴェルにシステムエラー！？急にどうして！？・・・」
まさか・・・
「そうよ！これが私のＩＳ，「ヴァイアライズビートエクセリオン」の力よ！隙ありよ！」
「くう・・・！？・・・・」
神崎瑠美　１６００
ＥＸタイプのＩＳだったのか！？
「「ヴァイアライズ・ザ・ビート」！」
ギュイーン！
愛歌１７００
瑠美１４００
「くあ・・・！？・・・・」
如月さんはワンオフアビリティーを発動してきた。
「神崎さん！」
このままでは不味い・・・だけど！
「次はアンタの番よこの変態！」
「！」
「そらあー！」
ギーン！
「やった！」
かかった！
「「カオスダークネス・トラフィネックブレード」！！」

「へ！？・・・・」
「うおらあー！」
俺１９００
愛歌１４００
「なんで・・・アンタ私の技受けて動けるのよ！？」
「残念だったな・・・俺のＩＳは全てを飲み込む闇・・・状態以上技なんてものは効かねえんだよ！」
「そんな！？・・・「ヴァイアライズ・ザ・ビート」！」
「無駄だ！」
ガキイーン！
もはや勝負は着いたも同然だった。
「くう・・・」
「危ない、危ない、負けるとこだったぜ」〜〜神崎さんが〜〜
「・・・・・」
「覚えておきなさい！」
如月さんは相当悔しく気が立っていたのか捨て台詞を吐かれた・・・。
俺これからどうすればいいんだ！？

EP?「ISファイト!」（後書き）

切り方が微妙だ・・・。
次回は部活やらバイトやら色々な面でカオスな話になるよ

ＥＰ？「バイトと部活とカオス」【前編】（前書き）

しばらく更新サボりすぎていてスイマセン！

EP？「バイトと部活とカオス」【前編】

～如月さんとのバトルから二日後～
「大分落ち着いてきたし部活に入るか。よし軽音部だ」
ってなわけで俺は音楽室へ
「たのもー！ってこれはやりすぎだったか・・・」
「・・・・・」
「はい？！・・・」
「な・・・／／／なんでアンタがココにいるのよ！？」
「そろそろ部活入ろうと思ってなんだが・・・」
如月さんは既に入部していたようだ。
「だからってなんで軽音部なのよ？！」
「えっと、歌歌いてえからだよ☆♪～」
「そ・・・そう・・・この私からメインボーカルの座を奪いたいということなのね！」
「なんでそういう話に！？」
駄目だこりゃ・・・色々あったが入部できた。
「あー・・・なんだって如月さんがいるんだよ？ギター買わなくちゃな・・・。なんか割のいいバイトでもないか・・・ン？」
なんか都合良くバイト募集チラシが落ちてきた。
「えーとなんだ？喫茶店のバイトか・・・よしいこう！」
だが俺はこの時あんなことになるとは思わなかった・・・。

EP？「バイトと部活とカオス」【前編】（後書き）

時間がなかったので前後編にさせて頂きました／／／
後編でバイトです！
感想評価よろしくお願いします！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6828q/

ＩＳ－インフィニットストラトス～ＣＯＯＤｏｆｔｈｅＳＡＩＮ

2011年10月7日15時59分発行